



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	特別支援学校における地域への相談支援の在り方Ⅶ：相談部事業報告（第1部 各部研究：相談部）(fulltext)
Author(s)	田口,悦津子; 安永,啓司; 池尻,加奈子
Citation	東京学芸大学附属特別支援学校研究紀要(57): 105-110
Issue Date	2013-05
URL	http://hdl.handle.net/2309/135673
Publisher	東京学芸大学附属特別支援学校
Rights	

特別支援学校における地域への相談支援の在り方 VII

—相談部事業報告—

田口悦津子 安永啓司 池尻加奈子

I はじめに

相談部は2003年度に創設され、今年度は10年目となった。今年度スタッフは、専任1名と幼稚部との兼任1名に加えて、小学部との兼任1名の計3名の体制となった。電話、メール、面接相談合わせて100件を越える相談を受け付けた。これは昨年とほぼ同じ件数であり、件数的には現在の体制では上限と思われる。昨年度と比較すると、電話・メール相談、特に、電話相談の件数が減り、代わりに巡回相談の回数が増えている。以下、IIでは今年度の相談部の各事業について報告し、IIIでは幼児就学支援事業について述べる。

II 各事業についての報告

1 2012年度の実施事項

電話相談、メールによる相談、面接相談、巡回相談、研修会等への講師派遣を相談部の事業として実施した。また、地域への貢献事業として、本校所在地東久留米市の就学支援委員会委員、保育課障害児審査会委員を以前より市より委嘱され勤めていたが、加えて25年度に東久留米市の特別支援学級が増設されるため、東久留米市特別支援学級開設準備委員会作業部会委員を今年度新たに委託された。また、校務分掌の幼児就学支援事業として、相談部・幼稚部・小学部担当者でさらさらグループ指導を実施した。以下、各事業についての概略を報告する。

(1) 電話相談・メール相談

電話相談は69件を受け付けた。昨年より件数が減っているが、スタッフが巡回相談で不在のため、相談の電話があったもののスタッフが直接依頼者から話を聞くことができなかったケースが多数あった。

(2) 面接相談

面談による相談をのべ66回実施した。回数としては昨年度と比べると27回ほど増加しており、一昨年とほぼ同じ回数となった。相談対象の内訳は幼児が26回、小学生30回、中学生6回、高校生以上が4回であった。幼児のケースは年長児の就学に関する相談が多く、後述する就学支援グループに繋がるケースが多い。学齢以降では学習不振、困難についての相談が多い。

(3) 巡回相談

1) 就学前の巡回相談

今年度も支援地域を東久留米市内と指定して巡回相談を行った。2006年度東久留米市保育課から巡回相談の依頼があり、それを受けて今年度も継続して行っている。市立保育園10園を各園3回以上実施した。午前中に対象幼児の様子や保育の観察をし、午後の午睡中に話し合いの時間を設け、対象幼児の課題や目標、支援方法の確認等を行った。

また、市内の私立幼稚園2園から依頼があり、そのうちの1園へは定期的に訪問し計7回巡

回相談を実施した。対象幼児の様子を観察し、課題や目標、支援方法の確認を園側と話し合ったり、就学に向けての課題について保護者面接を実施したりした。

2) 学齢期以降の巡回相談

市内小・中学校等の依頼により、小学校 11 校のべ 72 回、中学校 5 校のべ 16 回、高等学校 2 校のべ 8 回計 96 回実施した。その他ケースによって学童保育所等も巡回した。巡回相談の内容としては、児童生徒の観察からの見立て、支援の具体的な方法について等を各担任、校内コーディネーターに助言をする。また、校内の支援会議、ケース会議などに参加したり、保護者の希望がある場合は保護者面談を各学校の要請により行った。市教委による市内全学校をめぐる巡回相談等は実施されていないため、各学校によって、校内の特別支援の体制は様々である。年間 16 回巡回相談を行った A 小学校は、A 小学校の特別支援コーディネーターである養護教諭、特別支援担当の専科の教諭と生活指導担当教諭からなる特別支援推進チームが年度当初に年間計画を立て、それに基づいて、本地域のセンター校である都立清瀬特別支援学校と本校のコーディネーター（巡回相談員）が連携して訪問した。児童の観察、ケース会議、ニーズに応じて WISC 検査等の実施や保護者面談などを実施した。

また、今年度は市の 2 名のスクールソーシャルワーカーと、7 ケースを共有した。スクールソーシャルワーカーが介入しているケースは、児童・生徒に学習面での困難があるので、WISC 等の検査を受けたいが保護者自らが地域の教育相談機関に子どもを連れていけない事情がある場合が多い。そこで、巡回先の学校で WISC 検査を実施した。実施後、結果を報告書にまとめて保護者や担任に説明し渡している。その結果をその後の支援の資料の一つとして、ケース会等で活かされている。

今年度の巡回相談では、上述したように他機関との連携が進み、チームで巡回をしたり、支援会議の中で、各機関の役割を確認しそれについて実行したりするなど、連携・協働するケースが昨年度よりさらに増加し、巡回相談の半数を占めている。

3) 研修会講師

今年度も研修会講師を 5 回引き受けた。教育委員会からは初任者研修の依頼があり、小、中学校、保育園からの講師依頼もあった。また、小学校から大学教員を講師として紹介してほしい旨の依頼が相談部にあった。適任と思われる教員に依頼を仲介した。

(4) 東久留米市との連携

今年度は以下の 3 つの委員の委嘱を受け、委員会に出席して審議に加わったり、作業を行ったりした。

1) 就学支援委員会委員

東久留米市就学支援委員として委嘱を受け、10 ケースほど担当した。在籍園、学校での行動観察や集団での観察や判定会等の会議に出席した。

2) 保育課障害児審査会委員

保育課からの依頼で、5 回ほど出席した。主に対象児に保育士を加配するかどうかの審議や、その後の対象児の経過などの審議に参加している。

3) 特別支援学級開設準備委員会作業部会委員

平成 25 年度、特別支援学級として、市内第 6 小学校に通級の情緒障害学級と難聴・言語学級が、南町小学校に固定の知的障害学級と情緒障害学級が開設予定である。その準備のための開設準備委員会作業部会委員を市教委から委嘱された。主に、南町小学校に新設される情緒固定

学級の教科書の選定に関わることと教育課程について、都立清瀬特別支援学校の地域支援担当特別支援コーディネーターと第7小学校情緒障害通級学級主任とともに担当した。都内でも、まだ設置が少ない固定の情緒学級であるが、既設の清瀬、国分寺、武蔵村山等の学級の資料をもとに検討しまとめた。会議に5回ほど参加、その他、本校を会場に作業を3回ほど実施した。

以上、今年度の相談部の事業について概略を報告した。今年度は専任1名兼任2名の3人の体制で行った。兼任の初任者については、夏休みや10月の休みを利用して相談部の事業に少しずつ関わられるように計画、実施した。相談を担当する者を校内で育てていくことも、相談事業を継続していくためには、重要なことであると思われる。

Ⅲ 幼児就学支援事業

相談部の関連事業として実施している幼児就学支援事業「さらさらグループ」はグループ創立9年目に入った。これまでの経緯についてまとめる。

<はじめに>

○東京学芸大学附属特別支援学校の地域支援事業の経過と幼児就学支援事業誕生の経緯

1993年 発達障害相談室を開設（地域の乳幼児に対して、早期の教育相談を実施）

1994年 幼稚部での体験学習と大学の専門領域研究教員による個別面談指導を含んだ「発達障害相談グループ指導」を開始（ダウン症や知的な遅れのある自閉症対象「幼稚部体験」的な役割を担っていた。）

2003年 特別支援学校のセンター的機能を担う相談部が創設され、発達障害相談室の機能を継承した。

2004年 新グループ立ち上げ（相談対象の子どもに変化が生じる。）

*従来からの知的障害をもつ幼児たちの相談に加え、いわゆる発達障害の疑いのある幼児たちの相談が増加。前述の幼稚部体験グループとは課題が異なるため、新規に立ち上げた。）

2005年～ 就学支援グループへ（幼児への支援・保護者への支援）今年度で9年目となった。

○グループ卒業生たちの就学先について 卒業生54名（男児43名 女児11名）

・就学時 通常の学級へ45名 83% 特別支援学級（知的固定級）へ8名 15%
特別支援学校（知的）へ1名 2%

・2年生以上 48名

通常の学級のみ 21名 44% 通級を利用 18名 38%

特別支援学級 7名 14%（うち 知的固定級6名 情緒固定級1名）

特別支援学校（知的）2名 4%

以上のように、小学校就学時には約8割が地域の通常の学級で学んだ。2年生以降になると、その内の4割以上が通級を利用したことがわかる。

本稿はこの「幼児就学支援グループ」の取り組みについて概観し、特別支援学校が地域を支援する一例として報告するものである。

<グループの概要>

○幼児活動の実際—プレ学校体験とみんなでゲーム

・本グループの活動：6月～翌年3月 月1回（年間9回）水曜日の午後3時から5時

- ・参加幼児 7～8名
- ・スタッフ：本校教員 6名と学生ボランティア 2～3名

小学校の教室のように机が配置された環境で、幼児達は来校すると、まず、自分の座席を探し、そこで出席ノートづくりをする。その後、自由に遊ぶ時間を経て、全員が揃う頃に「おはなしタイム」が実施される。毎回あるテーマについてみんなに話をする時間である。これは小学校の朝のホームルームを模した活動である。

幼稚園・保育園とは大きく異なる「学校」という環境を事前に体験させる目的で、「プレ学校体験」を本グループの活動の中に数々設定をしている。その後「みんなでゲーム」の時間がある。小集団でのゲーム遊びをとおして、ソーシャルスキルやコミュニケーションスキルの向上を期待して設定している。

○もう一つの支援の柱

—懇談会を使った保護者支援プログラム—

幼児の言動が親のしつけの問題として捉えられたりすることも多く、保護者は戸惑いを感じる人が多いと思われる。また、幼稚園・保育園では通園施設等と比べて就学の情報を得る機会が少なく、保護者は不安を感じがちである。そこで、本グループでは、スタッフが就学について情報提供をしたり、保護者同士で情報交換したり、相談し合える懇談会を設定している。月に1回の実施であるが、回を重ねるごとにお互いの思いをことばに出し合える場となっている。毎年ほぼ同じプログラムで実施しているが、その年の保護者からの要望に応じて加わった内容もある。

—就学支援シートづくりで支援する—

就学を控えて市学務課から就学前機関に就学支援シートが配布されるが、市のシートができる以前から、本プログラムではオリジナルシートで保護者自身が就学支援シートを作成するという実際的なサポートに取り組んできた。1月2月の懇談会では、書き方や表現に悩む点について話し合う。また、実際に就学先に渡す方法（誰にどのように渡すか）なども話し合う。就学支援シートとともに本グループ作成の応援団メッセージも保護者から就学先の小学校へ渡される。保護者が我が子のコーディネーター的役割を学習する機会となる。

<まとめ>

本グループの8年間のネットワークづくりやグループ継続のための工夫についてまとめる。

○広域な活動から地域に根ざしたネットワークづくりへ

グループ開始当初は、熱心な保護者が自ら探して本グループへの参加を希望していたため広域からの参加であった。2006年から相談部が保育課から市立保育園の巡回相談を委託され各園との連携が進んだ。また市の保健センターとも連携が進み、その紹介で保護者が申し込みをされる場合も増え、現在では本地域に密着した活動となっている。

また、毎回懇談会を行ったことで9回の活動を通して保護者同士のつながりが深まり、自主的なサポートグループとなっている学年もある。就学後は、相談部が巡回相談の一環として、各小学校と連携しながらグループ卒業生の支援を継続している。

○グループを継続するための担当者の確保について

当初は相談部の活動として相談部員2名が担当した。翌年には校内研究の一環として8名が担当となり、2008年度以降は校務分掌として、幼稚部、小学部、相談部の教員で担当している。教員の他に本学学生が関わっている。2010年までは大学院の授業のフィールドとして、院生が

幼児と関わりながら保護者対応を学ぶ場ともなっていた。現在は、学部学生のボランティア体験の場となっており、教員志望の学生たちが幼児たちの遊び相手になっている。このように大学の附属という特徴を活かし、地域のニーズに応えての支援事業を展開していきたい。

《参考資料 平成 24 年度さらさらグループ実施事項》

参加者 A 児：東久留米市在住（6 月～） 私立幼稚園在園（保護者から申し込み）

B 児：東久留米市在住（6 月～） 公立保育園在園（保護者から申し込み）

C 児：東久留米市在住（7 月～） 公立保育園在園（巡回相談から）

D 児：東久留米市在住（7 月～） 私立幼稚園在園（保健センターの紹介）

E 児：東久留米市在住（10 月～） 私立保育園在園（保護者から申し込み）

F 児：東久留米市在住（8～12 月） 私立幼稚園（保健センターの紹介）

スタッフ：幼稚部（安永・宮井・亀田） 小学部（池尻・仲野） 相談部（田口）

学生ボランティア 5 名登録

参観：保育士・我孫子市情緒通級担任・保護者

実施事項

- ・ 6 月 6 日（水） 第 1 回 2 名参加 ・ 学生ボランティア 2 名参加
 - さらさらノートづくり 日付を書く シールを貼る 自由遊び
 - おはなしタイム「自己紹介」「うたのリクエスト」「じゃんけん」
 - ・ ゲーム（ボーリング・黒ひげ・お菓子取り） おやつ 自由遊び 帰りの会
 - 懇談会：オリエンテーション
 - ・ さらさらグループについて グループの目的 今年度取り組んでみたいことの説明 自己紹介
- ・ 7 月 18 日（水） 第 2 回 4 名参加・ 学生ボランティア 2 名参加
 - ノートづくり（日付を書く・台紙を切る・のりで貼る・シールを貼る）・ 個別課題・ 自由遊び
 - おはなしタイム「夏、楽しみにしていること」「うたのリクエスト」「じゃんけん」
 - ・ ゲーム（ボーリング 黒ひげ お菓子取り） おやつ 自由遊び 帰りの会
 - 懇談会：就学・就学相談について
 - ・ 就学にあたって・ 特殊教育から特別支援教育へ・ 就学相談とは・ 就学までのプロセス
 - ・ 就学相談ですること
- ・ 8 月 29 日（水） 第 3 回 5 名参加＋OB 5 名参加 学生ボラ 5 名
 - ノートづくり・ 個別課題・ 自由遊び
 - おはなしタイム：「自己紹介と夏休み楽しかったこと」OB「自己紹介と小学校で楽しいこと」
（先輩の話聞く）
 - ・ ゲーム（ボーリング 黒ひげ お菓子取り） おやつ 自由遊び
 - 懇談会：OBの保護者の話を聞こう「小学校へ入学して」OB 母たち語る
- ・ 10 月 3 日（水） 第 4 回 5 名参加 学生ボラ 3 名 我孫子市小情緒通級担任参観
 - ノートづくり・ 個別課題・ 自由遊び
 - おはなしタイム：「うんどうかいについて」・ うたのリクエスト（多数決）
 - ・ ゲーム（おかいもの・ドーンジャンケン・お菓子取り） おやつ 自由遊び
 - 懇談会：我が子をみつめよう・運動会について・個別の課題について
- ・ 11 月 7 日（水） 第 5 回 5 名参加 教育実習生 2 名

- ノートづくり・シールを貼る 自由遊び
- おはなしタイム：「好きなたべもの」について・うたのリクエスト（多数決）
 - ・ゲーム（神経衰弱 だるまさんがころんだ お菓子取り） おやつ 自由遊び 帰りの会
- 懇談会：就学時健診を終えて 各自の報告・感想
- ・12月12日（水）第6回 4名参加
 - ノートづくり・個別課題・自由遊び
 - おはなしタイム：「クリスマス・お正月たのしみにしていること」
 - ずこうタイム（リースづくり）
 - ・ゲーム（神経衰弱・お菓子取り） おやつ 自由遊び 帰りの会 プレゼント交換
 - 懇談会：現況報告 各自の報告・感想 情報交換 就学支援シートとは
- ・1月9日（水）第7回 4名参加
 - ノートづくり・個別課題 自由遊び
 - おはなしタイム：「クリスマス・お正月で楽しかったこと」
 - ずこうタイム（ふくわらい）
 - ゲーム 学校探検 しっぽとり お菓子取り おやつ 自由遊び 帰りの会
 - 懇談会：WISCⅢについて・就学支援シートについて
- ・2月6日（水）第8回 5名参加 次年度参加希望保護者1名参観
 - ノートづくり・個別課題 自由遊び
 - おはなしタイム：「大好きな先生・友だち」についてお話ししよう
 - しっぽとり・移動・プレ学校体験 音楽の授業体験 お菓子取り おやつ 自由遊び 帰りの会
 - 懇談会：現況報告 就学支援シートについて「渡し方」
- ・3月13日（水）第9回 5名参加 次年度参加希望者1名参観
 - ノートづくり・個別課題・自由遊び
 - おはなしタイム：「小学校で楽しみにしていること」
 - 学校プレ体験：着替え・体育の授業体験 お菓子とり 掃除 自由遊び
 - 修了式
 - 懇談会： まとめ 就学支援シートを渡して、さらさらグループに参加して思うこと

<24年度の特記事項>

- *出席率：39/44 88,6% *東久留米市在住率 6/6 100%
- *6名中4名が就学相談を受けた。
- *就学支援シートを保護者が就学先に持参（含応援団メッセージ）